

本行動計画の発生段階と WHO のフェーズの対応表

本行動計画の発生段階	国における発生段階	WHO のフェーズ
未発生期		フェーズ 1, 2, 3
海外発生期		フェーズ 4, 5, 6
道内未発生期	国内発生早期	
道・町内発生早期	国内感染期	
道・町内感染期		
小康期		ポストパンデミック期

※参考 WHO による「世界インフルエンザ事前対策計画 (WHO global influenza preparedness plan)」における警報フェーズ

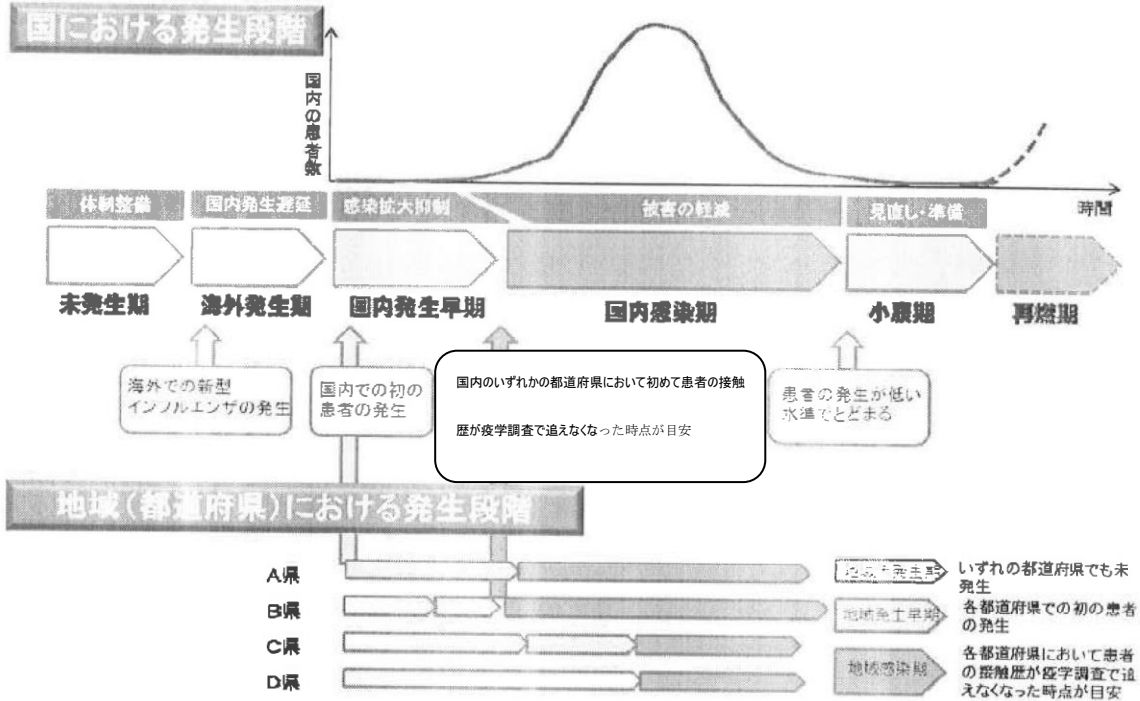
パンデミック間期	ヒト感染のリスクは低い	1
動物間に新しい亜型ウイルスが存在するがヒト感染はない	ヒト感染リスクはより高い	2
パンデミックアラート期 新しい亜型ウイルスによるヒト感染発生	ヒトーヒト感染は無いか、または極めて限定されている	3
	ヒトーヒト感染が増加していることの証拠がある	4
	かなりの数のヒトーヒト感染があることの証拠がある	5
パンデミック期	効率よく持続したヒトーヒト感染が確立	6

発生段階

本行動計画の発生段階	道・町内の状態	国の状態
未発生期	新型インフルエンザが発生していない状態	
海外発生期	海外で新型インフルエンザが発生した状態	
道内未発生期	道内では、新型インフルエンザの患者は発生していないが、本道以外の都府県で新型インフルエンザの患者が発生している状態	国内発生早期 国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザの患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態
道・町内発生早期	本道・町内で新型インフルエンザの患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態	
道・町内感染期	道・町内で新型インフルエンザの患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態 ※感染拡大～まん延～患者の減少	国内感染期 国内のいずれかの都道府県で、新型インフルエンザの患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態
小康期	新型インフルエンザの患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態	

＜国及び地域（都道府県）における発生段階＞

地域での発生状況は様々であり、地域未発生期から地域発生早期、地域発生早期から地域感染期への移行は、都道府県を単位として判断



新型インフルエンザ発生後の主な対策の流れ(イメージ)

